

# 学校関係者評価委員会（2022年度評価）議事録

日 時： 2023年9月14日(木) PM6：30～7：15

場 所： 京都保健衛生専門学校 大会議室

出席者： 看護学科三年課程 卒業生 高乗 美奈子  
学識経験者 高井 好信 (ZOOM)  
看護学科三年課程 保護者 小西 紗恵子 (ZOOM)

学校出席者： 谷本 千亜紀 看護学科副校長  
磯田 典子 事務局長

## 1. 開会挨拶（磯田事務局長）

日頃より、講師として、実習病院、就職病院としても、また学校役員としても大変お世話になり感謝している。また、この度は本校の元職員の不祥事について、関係各位の皆様へ、大変ご迷惑とご心配をお掛けし、深くお詫びもうしあげる。

学生への学習・学校生活に不利益がないよう、また不安がないよう、教職員、全力で取り組んでいるところである。評価委員の皆様にご意見を伺い、いっそうの教育の向上に取り組んでまいりたい。

## 2. 出席者紹介（磯田事務局長）

出席者の紹介がされた。泉田教務部長が、体調不良で失礼している。

## 3. 学科の運営・課題について（谷本看護学科副校長）

2020年から3年間は、新型コロナウイルスの影響が多岐にわたったが、可能な限り対面授業と臨地実習に行けるよう最大限努力をしてきた。2020年4月は緊急事態宣言が出たため、入学式の中止や授業開始時期を5月に延期したが、以後課題学習・オンライン・オンデマンドを駆使し、6月から対面授業を一部再開し、3年間のカリキュラムは無事終了した。

臨床検査学科・臨床工学技士専攻科の実習において、制限はあったが実習に行くことができた。看護学科は、臨地実習時間を短縮し学内実習と組み合わせ対応した。全く臨地実習に行けなかった学生はいない。現在は、一部制限等はあるが、ほぼ通常通り、授業・実習の運営ができています。京都私立病院協会の皆様、関係各所、講師の皆様の多大なるご尽力のたまものと感謝している。

2022年度新カリキュラムについて、看護基礎教育のカリキュラム改正の背景は、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向け、多職種が連携し適切な保健・医療・福祉を提供できることが期待され、対象の多様性・複雑性に対応した看護を想像できる能力が求められている。総単位数102単位に増加、ICTを活用するための基礎的能力、コミュニケーション能力の強化、臨床判断能力等に必要な基礎的能力の強化、地域・在宅看護論の充実が主な改正内容である。

2019年度からカリキュラム評価を行い、看護学科の課題は、①社会情勢や地域に目を向けることが弱く、視野が狭い ②学習習慣や学習方法が身につけていない入学生の増加 ③卒業率が80%、実習不合格で卒業できない学生が多いであった。「実習で看護を考え看護について悩んでほしい」と考え、1・2年次で学習方法を身につけ、主体的に学習できるようなカリキュラムを考えた。教育の中核に「対象理解」「根拠ある看護」「責任」をおき、3年間で104単位2970時間とした。学び方の順序性を変え、臨床に近いことや看護から学び必要性を感じながら基礎を学ぶようにした。3学科ある強みを生かし、チーム医療演習という科目において3学科合同で演習を行う予定である。現在2年目になる。学生の反応は、入学時からフィジカルアセスメントなど難易度の高いものから学ぶため、「難しい」と頭を悩ませているが、フィジカルアセスメント・解剖生理学・病態生理

学・看護と反復して学ぶため、徐々に理解ができるようになり、少しずつ看護師らしく考えられるようになってきている。著名な成績の変化等は見られない。

臨床検査学科も2022年4月から新カリキュラムが開始になっている。単位数の増加が主な変更点である。臨地実習の時間数が増えて、必ず見学しなければならない項目が設定された。入学試験で受験者が減少してきて学力が厳しい学生が入学している、何とか国家試験に合格するよう補習などを行い努力している。

臨工学技士専攻科は、2023年4月から新カリキュラムが開始されているが、本校は専攻科の為、改正は2025年度4月から開始となる。主な変更点は、単位数の増加である。医師・看護師が行っていた仕事をタスクシフトという事で、しなければならないので、臨床支援技術という項目がふえて、臨地実習でも必ず見学では無く、実施しなければならない。必ず見学しなければならない内容が増えた。

看護学科の卒業生は、京都府内、京都私立病院協会に8割以上就職しており活躍している。専門学校の離職率が多い中、本校の卒業生は比較的定着しているようである。先日のホームカミングデイでは、打たれ強く、へこたれていない感じを受けた。患者様や自分の行っている看護のことを語り、大変頼もしく成長していた。臨床検査学科と臨床工学技士専攻科の卒業生は、全国から来て、全国に就職し活躍している。

看護学科の入学試験においては、昨年度までは3倍あり京都の専門学校で1番の倍率を維持していたが、今年度2期の入学試験では応募者が半減している。検査学科・臨床工学技士専攻科は、定員割れの状態である。少子化の影響と大学志向が主な原因である。入学生の確保ができないと経営が非常に厳しくなる。

国家試験合格率は3学科とも全国平均以上を維持している。しかし、臨床工学技士専攻科を除き、卒業率は低い。原因は、応募者が少なく学力や精神力が低い学生を入学させなければならない状況であること、医療専門職として一定の基準を満たす必要があるため、3年間で一定の基準まで引き上げることが、大変困難な状況である。学校運営上の課題は大きい。現在若い職員たちと「未来プロジェクト」として学校経営を考えており管理者と共に、入学定員を確保する取り組みや退学者を出さない取り組みを考えている。

#### 4. 2022年度 学校関係者評価について（磯田事務局長）

評価について、学生便覧、学校案内、毎月の校務運営会議の議事録、年2回の理事会議事録を送付してHPを見て頂いたり、保護者や実習指導者、役員としての立場から、評価表にて1年間の評価をしていただいている。評価は、良い、普通、不十分の3段階で行って頂いている。達成率は満点を100としている。別紙が今回の評価結果である。

2022年度は全体的に、達成率において、項目全般に低下した結果となった。

項目2. 学校運営では、意思決定システムが確立されているか。項目3. 教育活動では、成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。項目4. 教育成果では、就職率の向上が図られているか、退学率の低下が図られているか、卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。項目5. 学生支援では、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか、奨学金に対する支援体制は整備されているか、保護者と適切に連携しているか。卒業生への支援体制はあるのか。項目6. 教育環境では、学外実習等について十分な教育体制を整備しているか。項目7. 財成では、全般的に。項目9. 法令の順守では、自己点検・自己評価結果を公表しているか。の項目が2021年度よりも低く、今年だけの評価をとっても低くなっている。以上の項目が特に今年度の課題と思っている。

○退学率の低減が図られているかについては、最も低く、学生相談室の回室数を増やしたり、学生と面談して指導に努力をしているが、臨床検査学科は特に受験生が少なく、成績の低い学生を取る状況であり、学力不足・精神的につらくなりといったところで退学の減少がなかなか止められない状況で、一層の工夫・努力が必要と考えている。

- 意思決定システムが確立されているか、自己点検・自己評価結果を公表しているか、など、管理体制をしっかり行い、規則の確立と順守を見直し実行しているところである。
- 学生への支援では、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか、の評価が低い、日本学生支援機構奨学金、高等教育修学支援制度、京都私立病院協会会員病院奨学金、京都府看護師等修学資金の貸与、専門実践教育訓練給付制度などの制度を学生に紹介して、事務取り扱いを行っている。アピールが足りていないのかと思われる。
- 卒業生への支援体制はあるかの評価では、先ほど看護学科で説明があったが、ホームカミングデーを行い、卒業生の状況を知り、悩みを聞いたりまた同窓生の状況をお互いを知る場を作っている。臨床検査学科・臨床工学技士専攻科でもなんらかの支援が課題と思っている。
- 財成については、少子化に歯止めがかからず、大学志向であり、受験生の確保に大変苦慮している。経済的安定の為に在校生の充足が不可欠であり、学校の今後について、検討会を行い基盤安定に向けて努力しているところである。

#### 5. 質疑応答・意見交換（評価委員・学校職員）

- 時代背景と共に、経営の方も大変になってると感じられる。学生の観点も変わってきている。物も豊かになり、環境に恵まれている中で、学生が何に悩み、どうゆうことを感じながら日々過ごしているのか、教員もコミュニケーションを取り、試行錯誤して難しいものがあるのだと感じた。退学者という事からも感じられる。本当に医療従事者としてやりたくて来ているのか、どのような気持ちで選んだのかでも大きく関わってくる。就職させるという学校としての役割もあり、関わりが難しいだろうなと感じている。
- コロナの中で医療現場の逼迫があり、看護学科に対する要望は大きいと思っている。大切な実習がなかなかできなかったという事は、学校運営も学生さんにとっても非常に難しい時代にこのような勉強をなさってたんだ、大変だったのだと感じている。就職率がよく、離職率が低いと聞いて、看護という事についての意識が非常に、深く伝わっていたのではないかと感じた。合格率が下がっているという事は、実習で、学生が思いを積み重ねることが難しくなったということと思っている。今後、改善されていくと思われる。少子化で、簡単に楽に就職できる状況であり、資格という物に対して育成していくという努力が大変だと思うが、皆さんがんばっておられると受け止めている。
- 退学率の低減が図られているか、という事が丁寧な指導をしていただいている状態でも、今の学生にとっては、難しいところがあるのかなと思われる。引き続き、保護者も受け身ではなく、連携を取って学校の活動に参加出来たらよいと思う。
- 保護者の立場で、成績評価、単位認定の基準は明確になっているか、の項目が低いのご意見はありますか
- 1年生で通っているが、テストの点は返ってきているが、成績表は1年生の終わりにお知らせがあると聞いている。順位、到達度が成績でしか見られていない。定期的に返していただければ、追いかけて行けるのかなと思われる。
- 基礎学力が低く教科書も読めない現状がある。入学前学習も任意だったが、次年度から全員にやって頂く、フィードバックできるアプリでやることなど検討している  
リメディアル教育、毎日問題をして出して学習確認する。ついていけない学生をまめに声掛け、面談をしている。夏にテストに向けての補習で呼んだが、暑さと休みを返上してまでとなると難しかった。個別指導をしないと、いやにならないかわりを努力している。検査学科は月曜試験を行っているが、結果がなかなか出せていない。相談しないで退学時結論を言うてくる学生が多い。未然にこちらから気づいて、声を掛け続けて地道な努力を続けるしかない。

保護者と連携をとることが大事。本人主体に考えているが、保護者に早く耳に入れた方が良い事もある。  
学生のだ承をえながら、保護者に説明する頻度も増えていおり、なんとか連携をしてやっている。

閉会：(磯田事務局長)

ご意見、本校へのご理解のお言葉もいただき、この1年頑張っていきたい。また1年資料を送らせて頂くので、ご評価をよろしく願いたい。本日は大変ありがとうございました。